

「ささゆりの里布ぞうり研究会」を10年前に設立。設立当初から研究会の会長を務めているのが三宅弥生さんである。三宅さんは「布ぞうりを10年作り続けているが、全く飽きること無く制作している」と楽しそうに話す。「毎年開催する全国布ぞうりコンテストには多くの作品が出版され、制作体験に串原へ訪れてくれる人も増えている。地域の活性化につながればやりがいもある」と楽しさとともに、活動への熱意を語った。「研究会では串原こども園の園児へ布ぞうりのプレゼントを毎年行っている。園児も喜んで履いてくれる」と地域内でも利用されることを嬉しそうに話した。



布ぞうりで地域おこし

全国へと広がる布ぞうりの輪

□プロフィール

ささゆりの里布ぞうり研究会会長。仕事や家事をこなしながら、少しの時間でも布ぞうりを制作するほど布ぞうり好き。66歳からピアノの演奏を習い始めた。

恵那で輝いている旬な人を紹介します

串原木根

三宅 弥生 さん 72歳

「震災後の避難生活が大変な時に、布ぞうりの作り方を習いに何度も串原まで来てもらうのは心苦しく思い、こちらから作り方を教えに行ったり、一緒に福島県で布ぞうりイベントを開催したりするなど」と話す。布ぞうりが縁でお互いに行き来して交流が生まれた。今では全国布ぞうりコンテストに出展された作品は、入賞した作品を除き被災者支援として利用している。

「布ぞうりを制作して10年になるが、大変な時も心強い研究会の仲間がいたから続けられたと思う。リニューアルオープンする大正村浪漫亭で布ぞうりが販売されるのをきっかけに、明智でも布ぞうりを制作する輪を広げたい。将来は恵那市の特産となれどと思う。思い立ったら吉日が私流。幾つになっても勉強する気持ちを持ち続けたい」と夢への挑戦を語った。



▲専用の道具を使用して、あっという間に1足制作する三宅会長

学ぼう伝えよう
輝く
恵那人
144

長寿を祝い市長が訪問

NEWS&
9月13日
TOPICS



市長が101歳以上の在宅高齢者4人と9月に100歳を迎えた1人を訪問し、長寿を祝いました。9月1日現在、市内で101歳以上の方は37人。最高齢は明智町の伊藤まづ子さんの105歳。男性の最高齢は上矢作町の佐藤傳さん（写真）と同じく105歳です。

たわわに実った稲を刈り取る

NEWS&
9月12日
TOPICS



東野小学校の4、5年生16人が総合学習の一環で、5月に田植えをした稲の刈り取りを体験しました。この日収穫した米は、11月に予定している感謝の会で、田植えや稲刈りなどを手伝ってくれた方を招待して振る舞われる予定です。

地域のブランド化が大切

NEWS&
9月15日
TOPICS



リニア中央新幹線の建設を契機に、リニアを生かしたまちづくりを進めようと恵那文化センターで講演会が開催されました。講師は市観光協会顧問で学習院大学経済学部経営学科教授の上田隆穂さん。「リニアが来る町、恵那の地域活性化」をテーマに講演しました。

武並小児童防災を学ぶ

NEWS&
9月13日
TOPICS



武並小学校で防災スクールが開催されました。低学年は、避難時取る姿勢を紙芝居で学び、起震車で震度7の揺れを体験しました。中学年は、クイズで防災を学んだ後、毛布で即席の担架を作りました。高学年は、三角巾での応急手当や非常食の炊き出し訓練を行いました。

秋雨の農村景観を散策

NEWS&
9月22日
TOPICS



岩村町富田地区で「秋のふれあいウォーキング」が開催されました。ふるさと富田会館を発着点に、市内外から集まった約250人が、秋雨前線が停滞するあいにくの天候の中、傘やかっぱで雨をしのぎながら、収穫期を迎えた農村景観の中でウォーキングを楽しみました。

笠置山アクリの収穫を祝う

NEWS&
9月17日
TOPICS



中野方町にある「えな笠置山栗園」で収穫祭が開かれ、市内外から約250人が来園し、クリ拾いなどを体験して実りの秋を楽しみました。イベント会場では木の名前当てクイズ（写真）やクリのつかみ取り、バザー、ジャグリングパフォーマンスなども行われました。